

中学校

平成 8 年 度

# 教育研究員研究報告書

保健体育

東京都教育委員会

平成8年度

教育研究員名簿 (保健体育)

分科会名	区市町村名	学 校 名	氏 名
I 器 械 運 動	文 京	第 一 中 学 校	水 野 英 利
	品 川	浜 川 中 学 校	◎ 藤 田 博
	世 田 谷	八 幡 中 学 校	高 橋 恒 人
	足 立	花 畑 中 学 校	樋 上 典 子
	町 田	町 田 第 一 中 学 校	高 岡 潔 乃
	東 村 山	東 村 山 第 四 中 学 校	渡 邊 仙 二
	国 分 寺	第 一 中 学 校	田 口 克 己
	羽 村	羽 村 第 二 中 学 校	☆ 田 島 雅 司
II 球 技	大 田	貝 塚 中 学 校	黒 田 佳 昌
	渋 谷	代 々 木 中 学 校	菅 原 淳 一
	杉 並	和 泉 中 学 校	井 出 良 枝
	練 馬	大 泉 北 中 学 校	本 郷 光 一
	葛 飾	上 平 井 中 学 校	伊 藤 勝 美
	江 戸 川	二 之 江 中 学 校	○☆ 椎 橋 淑 隆
	府 中	府 中 第 九 中 学 校	清 水 雅 実
	日 野	大 坂 上 中 学 校	池 田 誠 喜

◎ 世話人    ○ 副世話人    ☆ 班長

担当 教育庁体育部体育健康指導課指導主事 齊 藤 孝 司  
 " 伊 藤 清 一 郎

# 目 次

I	主題設定の理由	2
II	研究のねらいと仮説	3
III	研究の方法	3
IV	研究の全体構想図	4
V	研究の内容	5
1	器械運動	5
(1)	意識調査の結果と分析	5
(2)	特 性	7
(3)	学習過程の工夫	8
(4)	課題のもち方と解決の仕方の工夫	8
(5)	第2学年「器械運動」単元計画	9
(6)	実証授業指導案	10
(7)	資 料	11
(8)	本時の結果と考察	14
2	球 技	16
(1)	意識調査の結果と分析	16
(2)	特 性	18
(3)	学習過程の工夫	18
(4)	課題のもち方と解決の仕方の工夫	19
(5)	第2学年「球技」単元計画	20
(6)	実証授業指導案	21
(7)	資 料	22
(8)	本時の結果と考察	23
VI	研究のまとめと今後の課題	24
1	研究のまとめ	24
2	今後の課題	24

## 研究主題

生徒一人一人が個性を生かし、主体的に学習する授業の工夫

## 研究副主題

生徒が自ら考える学習過程の工夫 — 選択制授業を通して —

# I 主題設定の理由

今日の我が国は、科学技術の進歩と経済の発展に伴う物質的な豊かさや便利さの生活の中で、国際化、情報化、高齢化、価値観の多様化など、社会そのものが大きな変容をとげている。

21世紀を展望した教育の在り方を審議している第15期中央教育審議会の第1次答申では子供たちに求められる資質や能力は「生きる力」であり、それを「自ら学び、自ら考える力」と位置付けた。それを見に付けるためには「ゆとり」が必要であるとし、家庭・地域社会での教育の充実に加えて、学校週5日制の完全実施を提言している。

学校教育へは、基礎・基本を徹底し、教育内容の「厳選」を図り、個性を生かす教育の充実の推進を求めている。また、教育内容の厳選によって生まれる「ゆとり」を生かし、「ゆとり」をもった授業の中で、子供の実態に即し、グループ学習・個別学習などの学習形態の工夫やチームティーチングの導入による指導方法の改善等、個に応じた指導の充実が期待されている。

中学生時代は、小学校と比べ、生徒一人一人の興味・関心、能力・適性等が多様化し、学習経験の差や習熟度の違いがより明確に見られる時期であり、運動に対する価値のとらえ方もかなりの相違が見られる時期である。

そのため、生涯体育・スポーツの基礎を培う中学校保健体育の学習においては、一人一人の生徒が運動に対する自己の能力・適性を知り、自己に適した運動を見付け、運動に親しみ、運動の喜びや楽しさを味わい、個性を生かす場となるように指導することが大切である。

そのためには、「個に合わせ、個を伸ばす指導」の工夫が重要であり、「何を学習するか、どのように学習するか」の判断や選択を生徒が行い、生徒が自己の興味・関心、能力・適性等にふさわしい運動種目や学習内容を選びながら学習を進めていくことができるように指導することが必要である。

このような考えから、

- 学習の主体は生徒である。
- 生徒一人一人の興味・関心を大切にす。
- 生徒の主体的な判断力、思考力などを育成する。

等を大切な視点とし、「生徒一人一人が個性を生かし、主体的に学習する授業の工夫」を研究主題とし、また、生徒が自ら学び、自ら考える教育を行っていく上でも、課題解決型の学習の一層の充実を図るの必要があり、副主題として「生徒が自ら考える学習過程の工夫－選択制授業を通して－」を設定した。

## Ⅱ 研究のねらいと仮説

### 1 研究のねらい

生徒一人一人が、自己の興味・関心、能力・適性等に応じた学習内容を選択し、自己の課題を解決するために、学習計画を自ら立案し、学習資料を活用した学習の展開を行う工夫を研究のねらいとし、『学習過程の工夫』『課題のもち方と解決の仕方の工夫』の2点を主な研究内容とした。

### 2 研究の仮説

<生徒の活動として>

- (1) 生徒自らが課題の設定や学習内容の選択ができるようになることは、運動そのものに興味・関心を抱くなどの内発的動機付けとなり、意欲的に学習に取り組むことになる。
- (2) 生徒一人一人が自ら考え、自己にあった学習過程を工夫することは、運動の楽しさや喜びが深まり、生徒の主体的な学習活動を一層高めることになる。

<教師の働きかけとして>

- (3) 適切な学習情報の提供や互いのよさを生かす学習形態の工夫をするなどの支援は、生徒の自発的・自主的な活動を促すことになる。

## Ⅲ 研究の方法

1 「器械運動」「球技」領域の2分科会を設定し、研究を進めた。

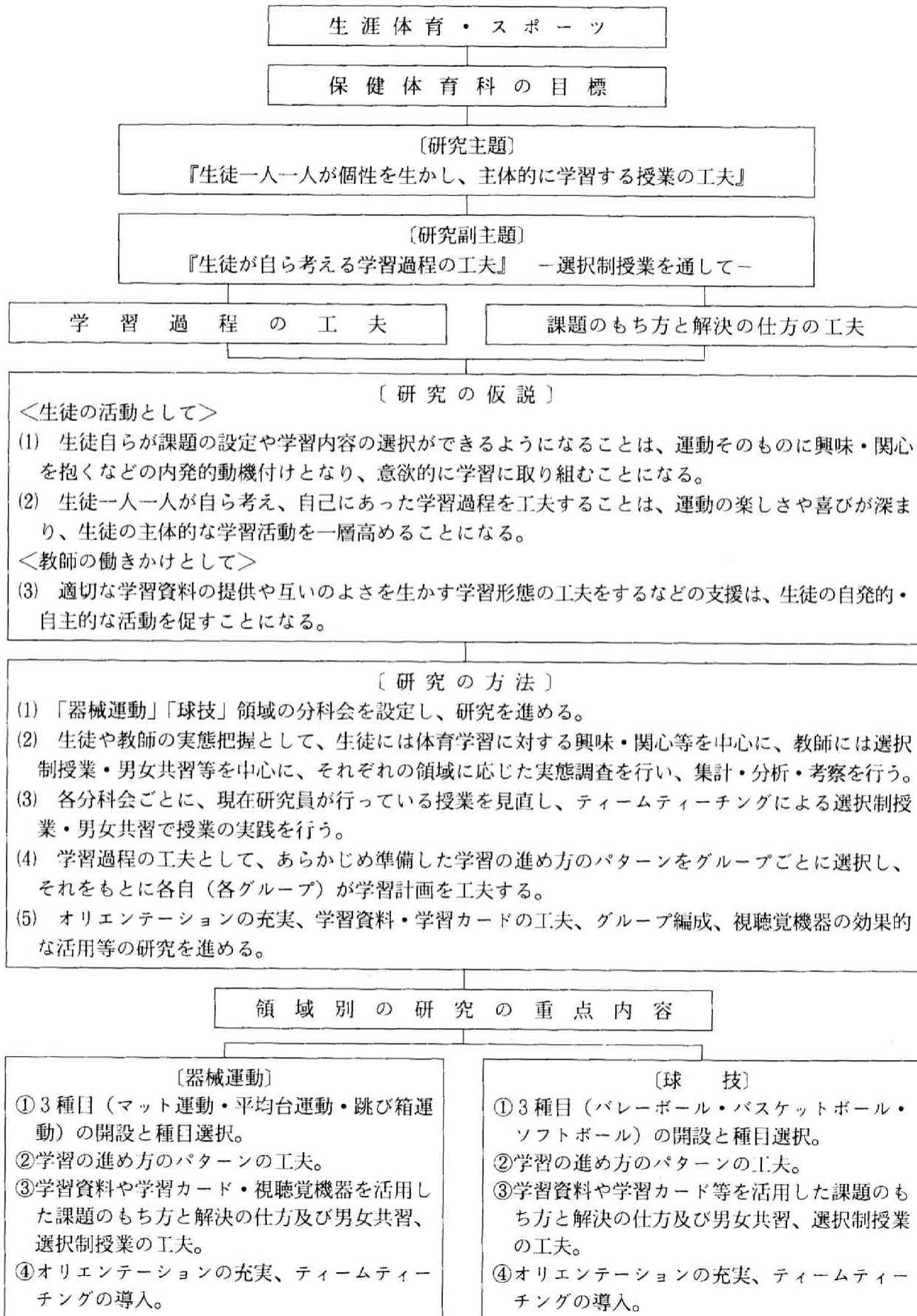
2 生徒や教師の実態把握として、生徒には体育学習に対する興味・関心等について、教師には選択制授業、男女共習等について、それぞれの領域に応じた意識調査を行い、集計・分析・考察を行った。

3 各分科会では、種目の選択を行い、男女共習、チームティーチングの実践を通して研究を進めた。対象学年は第2学年とした。

(1) 「器械運動」では、生徒の意識調査の結果及び学校の実態からマット運動、跳び箱運動、平均台運動を開設し、学習の「はじめ」の段階で3種目の運動を体験し、生徒が1種目の選択をできるようにした。さらに、学習の「なか」の段階では、学習の進め方のパターンをグループで選択し、そこに各自の学習内容をあてはめ、課題解決ができるよう学習計画を工夫し、男女共習による授業を展開した。また、オリエンテーションの充実、チームティーチングの導入、学習資料・視聴覚機器の活用等の工夫を行った。

(2) 「球技」では、意識調査の結果及び学校の実態からバスケットボール、バレーボール、ソフトボールの3種目を開設し、学習の「はじめ」の段階で3種目の運動を体験し、生徒が1種目の選択をできるようにした。さらに、学習の「なか」の段階では、各時間とも、はじめに個人や集団の課題を見付けるゲームを行い、学習の進め方のパターンをチームで選択し、そこにチームの学習内容をあてはめ、課題解決ができるよう学習計画を工夫し、男女共習による授業を展開した。また、オリエンテーションの充実、チームティーチングの導入、学習資料の活用等の工夫を行った。

## IV 研究の全体構想図



# V 研究の内容

## 1 器械運動

### (1) 意識調査の結果と分析・考察

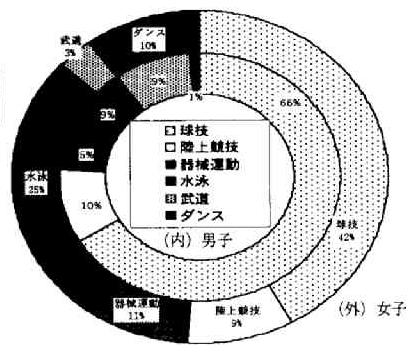
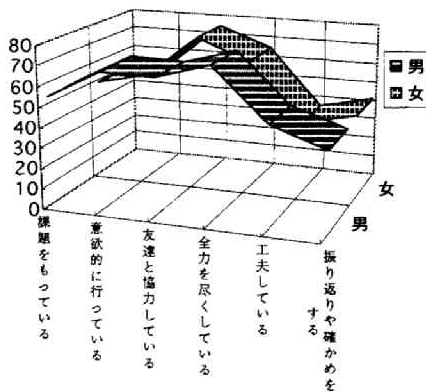
#### ① 意識調査について

ア 目的 指導計画を作成するに当たり、生徒の球技に対する興味・関心及び授業に対する意識、また、教師の選択制授業、男女共習に対する意識、実態を把握する。

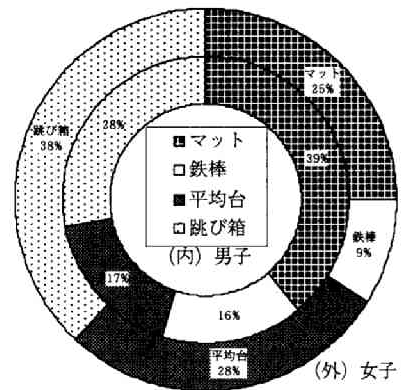
イ 対象 研究員所属校 第2学年男女 271名 研究員所属地区教員 87名

#### ② 意識調査の結果（生徒）

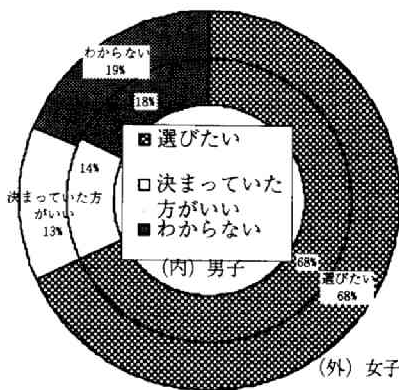
問1 日常の体育学習について 問2 好きな運動  
<表示は%>



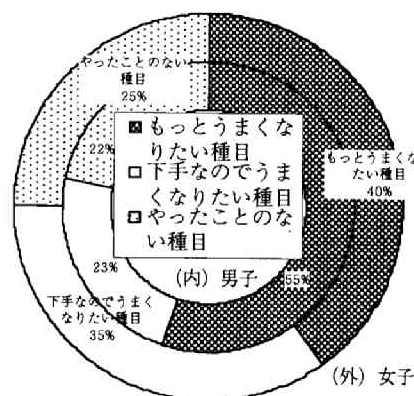
問3 行ってみたい器械運動 (種目)



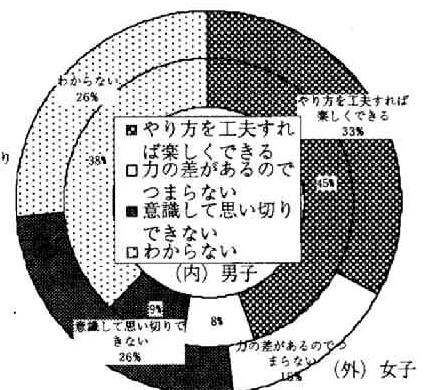
問4 自分で種目を選びたいか



問5 種目を選ぶ理由



問6 男女一緒に行くことについて



#### ③ 分析（生徒）

ア 日常の体育学習では常に課題をもって意欲的に活動している生徒が50%を越えている。また、友達と協力して、全力を尽くし活動している生徒は60~70%である。しかし、工夫したり、振り返りや確かめ合う活動をしている生徒は、50%以下である。

イ 男女共、球技に強い関心を示している。しかし、器械運動が「好き」「まあまあ好き」と答えている生徒が50%を越えている。

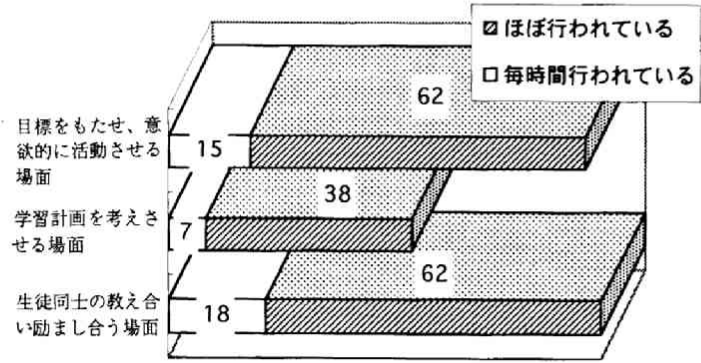
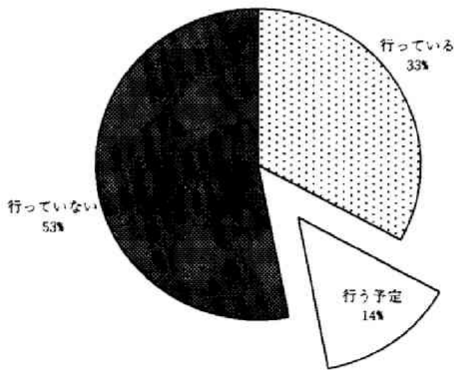
ウ 器械運動の中で行ってみたい種目は、男子はマット運動、女子は跳び箱運動が多い。平均台には、男子17%、女子28%が興味・関心を示している。

エ 自分で種目を選んで学習したい生徒が70%近くを占める。種目を選ぶ理由としては、「もっとうまくになりたい」が多い。

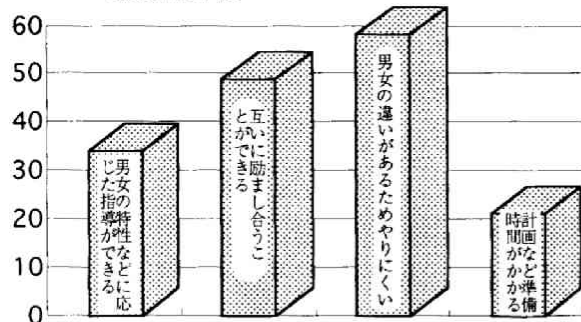
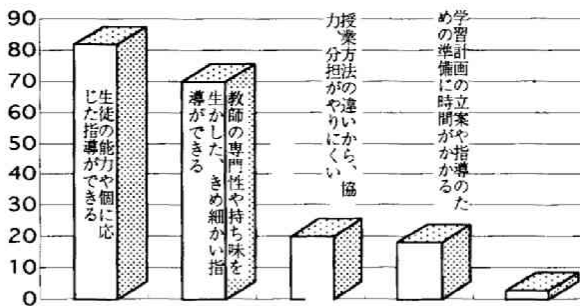
オ 男女共習については、「やり方を工夫すれば楽しくできる」と考えている生徒が男子は40%以上、女子は30%以上を占める。

④ 意識調査の結果（教師）

問1 器械運動の種目選択を行っているか<表示は%>      問2 日頃の学習活動の工夫 <表示は%>



問3 ティームティーチングについて（複数回答）<表示は%>      問4 男女共習について（複数回答）<表示は%>



⑤ 分析（教師）

ア 器械運動の種目選択を行っている教師は30%であり、行う予定の教師は15%である。

イ 教師は生徒に目標をもたせ意欲的に活動させたり、生徒同士の教え合い励まし合いの場面を多くつくっているのは60%である。しかし、生徒に学習計画を考えさせる場面をもたせているのは50%を下回る。

ウ ティームティーチングについては、「生徒の能力・適性に合った指導ができる」、「教師の専門性や持ち味を生かしたきめ細かい指導ができる」と考えている教師は70～80%を越える。

エ 男女共習については、「互いに協力し合うことができる」と考えている教師は50%である。一方、「男女の違いがあるため、やりにくい」と考えている教師は60%である。

⑥ 考察

ア 教師は、生徒に課題をもたせて授業を行おうとしているが、生徒に学習計画を考えさせる意識が少ない。そのため、生徒は課題に対し全力を尽くそうという意欲はある



が、活動を工夫し、振り返り確かめる意識が欠けている。

イ 教師は、チームティーチングについて「個に応じた細かい指導ができる」という割合がかなり高く、肯定的である。

ウ 男女共習について教師は、「能力の差があるため学習がやりにくい」という考えがあるのに対し、生徒は男女共習を望んでいる傾向がある。

## (2) 特 性

### ① 一般的特性

ア 器械運動は、マット・鉄棒・平均台・跳び箱といった器具を用いて、回転・支持・懸垂・バランス・跳躍などの「技」で構成されている運動である。

イ それぞれの運動種目の「技が円滑にできる」ことをねらいとし、自己の能力に適した技を選択し、自己の努力や工夫により、課題の達成やできばえの楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

ウ 技能内容が豊富で、系統的であるので、やさしい技から難しい技へと発展させていくことができる運動である。

エ 技の組合わせを工夫することにより、一人一人の個性を表現することができる運動である。

オ 用具の準備や課題達成の確かめ方など、互いに協力して、計画的に練習や発表ができる運動である。

カ 器械・器具の安全を確かめたり、技を練習するときに身に付けておくべき安全な行動の仕方や態度が養える運動である。

### ② 生徒から見た特性

ア 技の「できる」・「できない」がはっきりしている。

イ 緊張感とともに恐怖感が伴い、勇気や決断力が必要である。

ウ 関心の高い種目には男女差がある。

エ 自分で課題を選択し、用具や練習方法を工夫して、技を部分的にとらえて練習することができる。

オ 練習により成功したとき、喜びが大きく、新しい技に挑戦する意欲が出てくる。

カ 技の補助や助言を通し、互いに助け合ったり、教え合ったりしながら学習できる。

(3) 学習過程の工夫

- ① 自己の興味・関心、能力・適性等に合った種目を選択できるようにする。
- ② 種目の特性や学習の進め方を理解し、種目への興味・関心の高まりと自己に合った課題を見付けられるようにオリエンテーションを重視する。
- ③ 各種目において自己に合った課題の設定を行い、生徒自らが学習計画を立てられるよう学習の進め方のパターンをグループで選択し、より主体的な学習ができるようにする。

☆マット・平均台（共通）

学習の進め方のパターン	パターンの特色
Aパターン	振り返りを楽しんで練習するタイプ
Bパターン	積み重ねを楽しんで練習するタイプ
Cパターン	じっくり楽しんで練習するタイプ
Dパターン	流れを楽しんで練習するタイプ

☆跳び箱

学習の進め方のパターン	パターンの特色
Aパターン	向きの変化を楽しんで練習するタイプ
Bパターン	高さの変化を楽しんで練習するタイプ（縦）
Cパターン	高さの変化を楽しんで練習するタイプ（横）

マ ッ ト	跳 び 箱	平 均 台
ねらい① 学習の進め方のパターン		
A 組合せ ↓ 単一技 ↓ 組合せ B 単一技 ↓ 組合せ C 単一技のみ D 組合せのみ	A 向き 縦 ↓ B 高さ（縦） 横 ↓ C 高さ（横） 低 ↓ 高 ↓ 低 ↓ 高	A 組合せ ↓ 単一技 ↓ 組合せ B 単一技 ↓ 組合せ C 単一技のみ D 組合せのみ
ねらい② 学習の進め方のパターン		
単一技練習 ↓ 技を組合せた練習	A 高さ（縦） 低 ↓ B 高さ（横） 高 ↓ 低 ↓ 高	※高さ・幅を工夫する 単一技の練習 ↓ 技を組合せた練習

- ④ 生徒一人一人が今できる技のできばえを高め、新しい技に意欲的に取り組めるように、VTRや学習ノートなどが活用できる時間や場所を確保する。
- ⑤ 用具の配置などを工夫し、生徒が安全にかつ効果的に学習できるようにする。

(4) 課題のもち方と解決の仕方の工夫

- ① 学習の進め方のパターンや学習内容などが記載された学習ノートを活用することにより、生徒一人一人が主体的に学習計画を立てられるようにする。
- ② 学習ノートを活用し、技のできばえ等を自己評価・相互評価することにより、自己の課題を明確にする。
- ③ 学習の課題がつかめていない生徒に対して、具体的な技能の内容を提示するなど適切な助言等を与えることにより、一人一人が意欲的に取り組めるよう支援する。
- ④ チームティーチングの導入により、生徒の能力・適性等に応じた適切な支援ができるようにする。

(5) 第2学年 「器械運動」単元計画 (10時間扱い)

① 学習のねらい

- ・器械運動の今までの学習経験を生かし、種目を自ら選択することにより、主体的に学習する能力を身に付ける。
- ・今できる技やその組み合わせを楽しんだり、できそうな技に挑戦し、意欲的に取り組む態度を養う。
- ・自己に合った課題を設定し、生徒自らが学習内容を工夫しながら技の習熟を図る。
- ・学習環境の安全に留意し、互いに協力しながら学習する態度を身に付ける。

② 学習の方法 (男女共習、チームティーチングを取り入れた種目選択)

- ・生徒が、マット・跳び箱・平均台の3種目より1種目を選択する。

段階	時間	学習内容・活動	教師の働きかけ
学 習 じ め	1	オリエンテーション ・各種目の特性の理解 ・選択制授業の意義 ・学習カード、資料の活用	【TL-T型】 ・種目の特性について理解する。 ・学習形態・方法について理解できたか。(評価) ・今までの学習経験を生かし、各自の得意な種目、好きな種目を選択させ、意欲的に学習させる。 ・学習カードや資料を準備し、自己理解をさせるとともに、練習計画が立てられるように工夫する。
	3	3種目の運動の特性に触れて楽しむ 「マット」「跳び箱」「平均台」 ・自己の能力を知り、自己に合った課題を見付ける。 ・選択種目決定とグループ編成 ・グループでの話し合いと役割分担	
学 習 な か	4	マ ッ ト	【T1-T2型】 T1：跳び箱を担当 T2：マット・平均台を担当
		跳 び 箱	
	平 均 台		
習 か	5	生徒が、学習の進め方のパターンを選択し、学習内容を工夫する。 ねらい① 学習の進め方のパターン A 組合→一→組合 B 単→組合 C 単→技のみ D 組合せのみ A 向き 縦→横 B 高さ(縦) 低→高 C 高さ(横) 低→高	・今までの学習経験を生かし、のびのびと楽しく主体的に学習を行わせる。
		ねらい② 学習の進め方のパターン 単→技練習 技を組合せた練習 A 高さ(縦) 低→高 B 高さ(横) 低→高 ※高さ・幅を工夫する 単→技練習 技を組合せた練習	・自主的に安全点検を行わせ、安全に対する意識を高める。
ま と め	10	ねらい① 今できる技のできばえを高め、自己の課題に挑戦して楽しむ。 ・補助の仕方を学び、助け合って練習する。 ・今できる技の確認。 ・今できる技を工夫し、発展させる。 ・得意な技を組み合わせる。	・各自の課題を達成するために、学習計画を工夫しているか。(評価) ・各自の能力に合った学習の取り組みであったか。(評価)
		ねらい② 新しい技に挑戦したり、その技を取り入れた組み合わせを楽しむ。 ・できそうな技や新しい技に意欲的に挑戦する。 ・新しい技を取り入れて組み合わせを工夫する。 ねらい② 新しい技に挑戦し、できばえを高める ・できそうな跳び方や新しい跳び方に意欲的に挑戦する。 ・高さや跳び方を工夫して、技のできばえを高める。 ねらい② 新しい技や動きに挑戦したり、それらを取り入れた組み合わせを楽しむ ・できそうな技や新しい技に意欲的に挑戦する。 ・新しい技や動きを取り入れて組み合わせを工夫する。	・グループごとに協力、助言し合っ て学習させる。 ・各自の能力に合わせて、新しい 技に意欲的に挑戦させる。 ・グループのまとめ、各自の学 習活動を自己評価、相互評価さ せ、次回の課題をつかませる。
単元計画 作成上の 留意点		・発表会を行い、それぞれの種目での学習成果を互いに認め合う。 ・学習のまとめを行う。(評価、感想) ・今までの学習経験を生かした種目の選択を行う。 ・男女共習でグループ編成を行い、個人の違いを認め合いながら、互いに課題解決に向けて学習が進められるようにする。 ・チームティーチングにより、主体的な学習を支援する。 ・学習過程を工夫し、主体的な学習が円滑に行われるようにする。 ・学習カード、資料、VTR等を効果的に活用する。 ・安全点検等を進んで行い、安全に対する意識を高める。	・運動の楽しさや喜びを味わうことができたか。(評価)

(6) 実証授業指導案 2年「器械運動」(10時間扱いの6時間目)

①本時のねらい

- ・今できる技やその組み合わせを楽しんだり、できそうな技に挑戦し、意欲的に取り組む。(関心・意欲・態度)
- ・学習資料を活用し学習内容を工夫しながら、計画的に学習する。(思考・判断)
- ・仲間と補助や助言をしながら技の習熟を目指す。(技能)
- ・いろいろな技の仕組みや安全について理解する。(知識・理解)

②本時の展開

	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動		
	マ ッ ト 運 動	跳 び 箱 運 動	平 均 台 運 動
はじめ 10分	1. 用具・器具の準備、安全点検 …… ・グループごとに協力し合い、用具の準備をする。 ・自主的に安全点検を行う。 2. 集合、整列、挨拶 …… ・グループごとに集合し整列する。 ・元気に挨拶し学習への意識を高める。 3. 出欠確認、健康観察 …… ・出欠と健康状態を確認する。 4. 本時の流れの確認 …… ・本時の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 5. 課題の確認 …… ・学習ノートにより、グループ及び各自の課題を確認する。 6. 準備運動 …… ・グループごとにリーダーの合図で、種目に合った準備運動を工夫して行う。		
な	<p>めあて① ←→ めあて②の学習</p> <p>&lt;めあて①&gt;</p> <p>7. 今できる技の練習</p> <p>各グループごとに選択した「学習の進め方のパターン」に学習内容をあてはめて、技能レベルに合った技を練習する。</p> <p>各グループで選択した「学習の進め方のパターン」A～Dに沿って、各自が今できる技を確実にできるようにしたり、工夫や発展をさせて楽しむ。</p> <p>各グループで選択した「学習の進め方のパターン」A～Cに沿って、今できる技や高さを確かめ、確実にできるようにしたり、工夫や発展をさせて楽しむ。</p> <p>各グループで選択した「学習の進め方のパターン」A～Dに沿って、高さなどを工夫し、今できる技や動きを確かめ、確実にできるようにしたり、工夫や発展をさせて楽しむ。</p> <p>～ 予想される活動の例 ～</p> <p>【1班・Aさんの場合】 [パターン選択=A (組合せ→単一技→組合せ)]</p> <p>・組合せ練習 ↓「倒立前転」⇒「前転」⇒「開脚後転」 ・単一技練習(学習経験のある技) ↓「伸膝後転」 ・組合せ練習 「倒立前転」⇒「前転」⇒「伸膝後転」</p> <p>～ 予想される活動の例 ～</p> <p>【5班・Bさんの場合】 [パターン選択=B (縦置きにした高さの工夫)]</p> <p>・低い高さでの練習 ↑ ↓ 「腕立て開脚跳び」(6段) ↑ ↓ 「台上前転」(6段) ・段を上げての練習 ↑ ↓ 「腕立て開脚跳び」(8段)</p> <p>～ 予想される活動の例 ～</p> <p>【9班・Cさんの場合】 [パターン選択=A (組合せ→単一技→組合せ)]</p> <p>・組合せの練習 ↓「かけ上がり(正面)」⇒「前歩き」 ⇒「伸身おり」 ・単一技の練習(学習経験のある技) ↓「かかえ込み跳び」 ・組合せの練習 「かけ上がり(正面)」⇒「かかえ込み跳び」⇒「前歩き」⇒「伸身おり」</p>		
か 30分	<p>&lt;めあて②&gt;</p> <p>8. できそうな技への挑戦・できる技の習熟</p> <p>(1) グループごとに集まり、各自が、頑張ればできそうな新しい技やできる技の習熟を課題として選択する。                      (2) 学習資料や助言、情報等を活用して技の仕組みについて理解し、学習計画を立てる。(跳び箱はA・Bのパターン選択)                      (3) 頑張ればできそうな新しい技に取り組み、学習内容や方法を工夫しながら、これを加えた組み合わせ技が円滑にできるようにして楽しむ。                      (4) 補助を確実にしながら、互いに練習方法について助言し合い、グループ全体で協力して練習を進める。</p> <p>～ 予想される活動の例 ～</p> <p>【1班・Aさんの場合】</p> <p>・ねらい②の課題 「前方倒立回転跳びに挑戦し、連続技として組み合わせる」 ・学習計画「単一技→技の組合せ」 ・学習内容 (単一技)「跳び箱の高さを利用して倒立回転下りができるようにする」 (組合せ)「前方倒立回転跳び⇒倒立前転をつなげて試技してみる」</p> <p>～ 予想される活動の例 ～</p> <p>【5班・Bさんの場合】 [パターン選択=A(縦置き)]</p> <p>・ねらい②の課題 「大きな台上前転への挑戦」 ・学習計画 「低い段からの練習」 ・学習内容 「短い助走から強い踏切で腰を高く上げる練習をしてから、徐々に段を高くし大きな技に仕上げてみる」</p> <p>～ 予想される活動の例 ～</p> <p>【9班・Cさんの場合】</p> <p>・ねらい②の課題 「ターン(尚足1/2)と歩行(後進)技への挑戦」 ・学習計画「単一技→技の組合せ」 ・学習内容 (単一技・組合せ) 「床のラインや低い平均台を使い滑らかにできるようになったら高い平均台で、かけ上がりから入り試してみる」</p>		
まとめ 10分	9. 整理運動 …… ・グループごとにリーダーの合図で、使った部位を中心に行う。 10. 本時の反省と次時課題の確認 …… ・グループで話し合いをしながら、自己・相互評価をして学習ノートに記入する。 ・次時の課題のための「学習の進め方のパターン」について確認する。 11. 集合、整列、本時の成果の発表 …… ・リーダーが本時の成果と次時のねらいについて発表する。 ・互いの成果を認め合い、次時の課題と学習の進め方について確認する。 12. 挨拶 …… ・健康状態について相互に確認し、次回への意欲を込めて元気よく挨拶する。 13. 用具・器具の後片付け …… ・グループで使用した用具・器具を中心に、安全に留意し、協力して行う。 14. 解散 …… ・点検の確認を受けてから、グループごとに解散する。		

※ 評価〔(関)―関心・意欲・態度、(思)―思考・判断、(技)―技能、(知)―知識・理解〕

教師のはたらきかけ・留意点		※ 評価		
形態	T 1	T 2	生徒 (☆自己・★相互)	教師
T L T 型	1. 積極的に安全点検を行わせ、安全に対する意識を高める。 2. リーダーを中心に自主的に行動させ、全体の統率を図る。 3. 自他の健康に留意させ、健康に対する意識を高める。 4. 本時の流れを説明し、学習の見通しをもつ。 5. 学習ノートを活用し、課題を確認するよう指示する。 6. 種目に応じた工夫がされているか巡回し、助言する。	※跳び箱を中心に担当し、生徒全体の動きを掌握しながら、個別・グループ別指導にあたる。	1. 2. ☆★積極的に安全点検し、協力し合っている。 3. ★健康に関心をもち、正しく把握している。 4. 5. ☆課題をもち意欲的に学習しようとしている。 6. ★種目に合った工夫をしている。	1. 2. 協力し合い、安全に留意している。(関) 3. 健康に留意している。(関) 4. 5. 各自の課題が適切である。(思) 6. 種目の特性を理解し、工夫している。(思)
T L T 型	7. 今までの学習経験をもとに、できる技を確認する。 (1) 技の選択が各自の技能レベルに合っているかを確認する。 (2) 選択した「学習の進め方のパターン」により、適切な練習ができていないか、巡回しながら助言する。 (3) 補助に加わるなどして積極的な声かけを行い、できえを評価して各自の意欲を高める。 (4) 各グループが機能し、安全確認が徹底され、補助や助言等が活発に行われているか、巡回しながら援助する。 (5) VTR機器や学習資料などを活用し、技の工夫や発展について助言援助する。	※マット・平均台を中心に担当し、個別・グループ別指導にあたる。	7. ☆★適切な「学習の進め方のパターン」を選択している。 ☆自己の能力に合った楽しみ方を工夫している。	7. 技能レベルを正しく把握している。(思) 適切な技を選択している。(思) 適切な「学習の進め方のパターン」を選択している。(思) 自己の能力に合った楽しみ方を工夫している。(思)
T L T 型	・めあて①の学習が高められたところで、グループまたは種目ごとに集合し、めあて②の段階へ入ることを促す。			
T L T 型	8. めあて②の学習計画を立て、各自の能力に応じて意欲的に練習する。 (1) 各自が、めあて②に向けての課題を設定する。 (2) 資料、助言、情報を積極的に活用し、どのように練習するかについて計画が立てられるように助言する。 (3) VTR機器や学習資料を活用して技の仕組みを理解し、学習内容の工夫について援助する。 (4) 適切な技の選択を行い、学習内容や方法に工夫が見られるかを巡回しながら助言援助する。 (5) 安全で適切な補助が確実に行われているかを確認し、協力して練習する大切さを知らせる。 (6) 機能的で安全な場の設定について配慮する。 (7) 補助をしながら積極的な声かけを行い、よい点、努力点を評価し、各自の意欲を高める。 (8) 特に不得意な生徒に対しては、グループで協力し補助しながら練習するよう助言する。 (9) 課題を解決するために時間がかかりそうな生徒に対してはグループの協力とともに、個別に指導する。		8. ☆適切な技を課題として選択している。 ☆技の仕組みを理解している。 ☆学習計画が立てられる。 ☆学習内容を工夫している。 ★補助や助言をし合って楽しく学習しようとしている。 ☆意欲的に新しい技に挑戦している。 ☆★学習経験のある技に習熟が見られる。 ☆★新しい技が円滑にできる。	8. 適切な技を課題として選択している。(思) 技の仕組みを理解している。(知) 学習計画が立てられる。(思) 学習内容を工夫している。(思) 補助や助言をし合っている。(関) 意欲的に新しい技に挑戦している。(関) 技の習熟が見られる。(技) 新しい技が円滑にできる。(技)
T L T 型	9. リーダーを中心に、使った部位の運動を工夫する。 10. 学習ノートを活用し、本時の反省と評価について記入する。 ・各自の課題により、次時へのめあて①における「学習の進め方のパターン」を選択し、決定する。 11. 成果については、全員で賞賛を贈る。 ・次時の学習の進め方について知らせる。 12. 健康状態を確認し、本時の成果と次時の意欲を込め挨拶する。 13. 安全に留意し、協力・奉仕の大切さを知らせる。 14. 随時点検を行い、集団行動の確認をする。		9. ★種目に合った工夫をしている。 10. ☆★課題が達成され、次時の課題がもてた。 11. 12. ☆運動の楽しみ方が深まった。 13. ☆★互いに協力し合っている。 14. ☆自主的に行動した。	9. 種目に合った工夫をしている。(思) 10. 課題が達成され、次時の課題がもてた。(思) 11. 12. 運動の楽しみ方が深まった。(知) 13. 互いに協力し合っている。(関) 14. 自主的に行動した。(関)





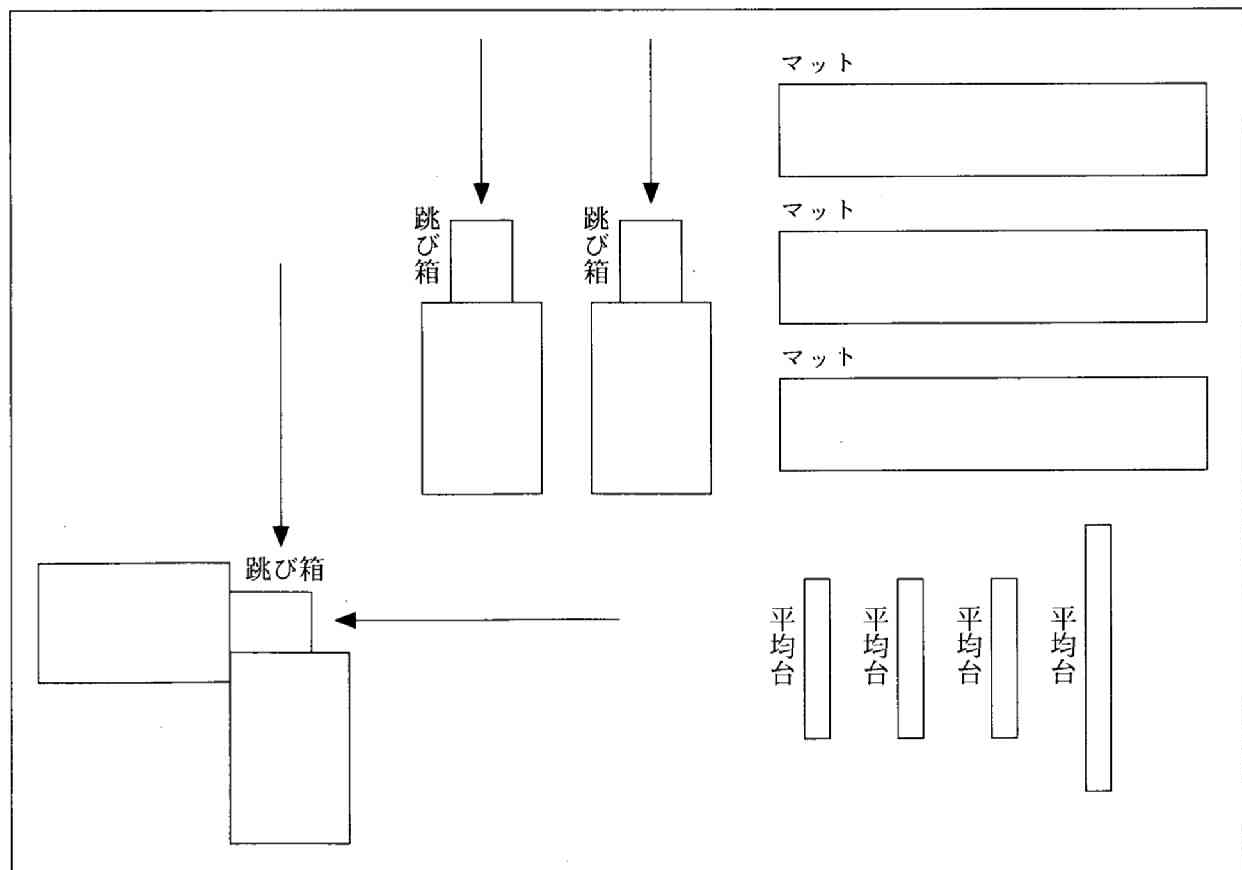
技のできばえ								
よくできる…◎			まあできる…○			もう少し…△		
技	向き・高さ	できばえ	技	向き・高さ	できばえ	技	向き・高さ	できばえ
1. 腕立て開脚跳び	横 段		4. 頭はねとび	横 段		7. 側方倒立回転跳び	横 段	
	縦 段			縦 段			縦 段	
2. かかえこみ跳び	横 段		5. 屈伸跳び	横 段				
	縦 段			縦 段				
3. 台上前転	横 段		6. 前方倒立回転跳び	横 段				
	縦 段			縦 段				

今日の自分	今できる技で楽しんだ (関)	A	B	C
	できそうな技に挑戦し、意欲的に取り組んだ (関)	A	B	C
	練習内容を工夫し、計画的に取り組んだ (思)	A	B	C
	仲間と補助や助言をし合いながら技が上達できた (技)	A	B	C
	技の仕組みや安全について理解できた (知)	A	B	C

次の時間の目標 (学習の進め方のパターンの選択・学習内容・挑戦したい技 など)

② 場の工夫 (体育館での器械・器具の配置例)



## (8) 本時の結果と考察

### ① 結 果

#### ア 選択制授業の導入

- ・生徒一人一人が自己の興味・関心、能力・適性等に応じて主体的に種目を選ぶことにより、自発的・自主的な運動への取り組みの意欲を引き出すことができた。

#### イ オリエンテーション

- ・オリエンテーションを工夫し、3種目の運動の特性に触れたことは、生徒自らが種目を選択する上でたいへん有効であった。

#### ウ グループ編成

- ・男女共習のグループ別による学習形態は、グループ内での役割を分担し、機能させることで、課題の解決が合理的に図られた。
- ・グループ学習により、互いのよさを発見し、豊かな人間関係の育成に生かす場面をつくることができた。

#### エ 学習過程

- ・あらかじめ用意した『学習の進め方のパターン』を選択することにより、ねらい①・②で、グループがどのように学習計画を立てればよいのか見通しをもつことができた。
- ・『学習の進め方のパターン』を示すことにより、生徒の「やってみたい」という気持ちを引き出され、また、特にねらい②においては「どのように学習するか」への着目が比較的容易になり、学習内容の工夫が見られた。
- ・ねらい①と②を1単位時間内に設け、毎時間くり返し、高めながら『なか』の段階を展開したことにより、生徒の学習過程の工夫が深まり、個に応じた学習と楽しみ方ができた。

#### オ 学習の援助

- ・『学習の進め方』『資料』『毎時の記録』を一冊の『学習ノート』としてまとめたことにより、合理的な学習情報として活用しやすくなった。
- ・種目ごとの学習ノートを作成し配布したことにより、学習のねらいがつかみやすくなるなど、集中した学習への取り組みができた。
- ・技のできばえを毎時間記録することにより、次時の課題がつかみやすくなり、技の確認や組み合わせの選択に有効であった。
- ・VTRを積極的に活用することで、技術的なつまづきが理解しやすくなった。
- ・VTR教材による情報は、学習計画を立てる上でたいへん有効であった。
- ・場の工夫は学習が円滑になるばかりでなく、運動量を豊かにし、個々の課題にも応ずる手立てとなった。

#### カ ティームティーチング

- ・ティームティーチングの導入により、生徒一人一人への支援が深まり、より安全に留意した指導ができた。
- ・ティームティーチングにおいて、教師間の相互の情報交換や役割分担をしたことに



より、生徒一人一人に適切な支援ができた。

- ・チームティーチングの指導形態として、一単位時間にT L - T ⇒ T 1 - T 2 ⇒ T L - T という指導体制をとったことにより、授業の流れが円滑になり、学習の深まりの違う生徒の指導にも応じることができた。
- ・教師が生徒一人一人に声をかけながら技能レベルを知らせ、励ますことで学習意欲が高まった。

## ② 考 察

ア 選択種目の決定は、生徒の希望で決定することが望ましいと考えられるが、実施にあたっては、それぞれの学校における諸条件の検討の他、保健体育科教師が「どのように学習させたいか」という考えを明確にもつことが重要である。

イ 選択制授業の活性化を図るためには、生徒の実態を的確に把握することが必要であり、実態調査やスポーツテストの結果などを活用して学習指導に生かすことが大切である。

ウ 今回は「学習Ⅰ」の段階に3時間を要したが、選択制授業では、学習のねらい、進め方、運動の特性の理解、グループ編成、学習計画など、単元独自の段階として位置されるこの「学習Ⅰ」が、学習過程の工夫の上でたいへん重要である。

エ 1グループの人数は、役割分担と学習の効率などから、4～6人位が適当である。

オ 男女共習によるグループ学習の形態は、人のよさを発見し、理解することで、自分のよさに気付くことができるほか、補助や助言をし合いながら豊かな人間関係をはぐくむ手立てともなる。

カ 学習過程を工夫する上でねらいを分かりやすくするため、本研究では『学習の進め方のパターン』を生徒に示し、選択させたが、グループで選択させたため、個々の課題と必ずしも一致しなかったため、今後、工夫する必要がある。

キ 今回は、1単位時間内に、めあて①とめあて②で進める単元計画で研究を試みたが、展開の『なか』で生徒が学習計画を立て、「どんな練習をするのか」といった具体的な内容を引き出すためには、学習資料の充実がたいへん重要である。

ク 学習過程の工夫には教師の支援が必要とされるが、自己の能力・適性等を正しく理解し、自己にふさわしい課題を見付ける学習活動の場面において、教師の具体的な助言が重要である。

ケ 学習ノートは内容を工夫し、分かりやすく、手軽に記入できるものとすると同時に、評価の項目も各段階による変化に対応できるように工夫する必要がある。

コ チームティーチングの実施にあたっては、それぞれの学校の実態を考慮し、特に今回のように3種目の中から種目選択を行う場合は、学習の深まりや安全面において、できれば、1種目を1名の教師が担当できるように編成することが望ましい。

## 2 球 技

### (1) 意識調査の結果と分析・考察

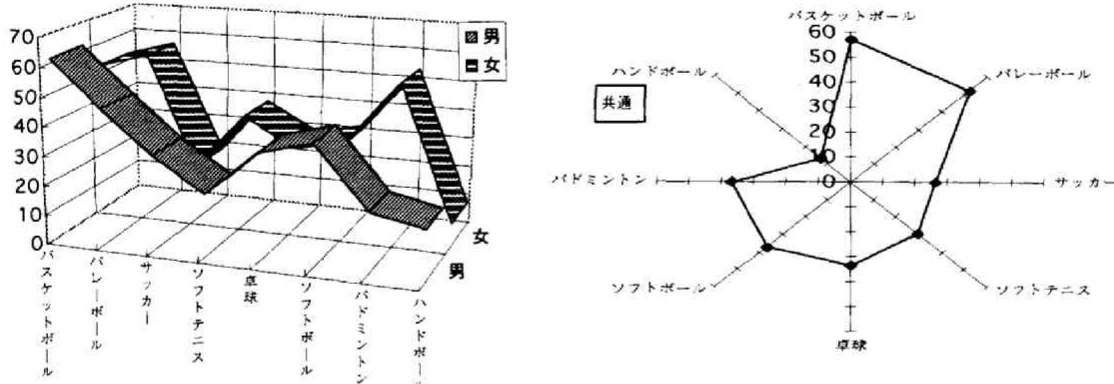
#### ① 意識調査について

ア. 目的 指導計画を作成するに当たり、生徒の球技に対する興味・関心及び授業に対する意識、また、教師の選択制授業、男女共習に対する意識、実態を把握する。

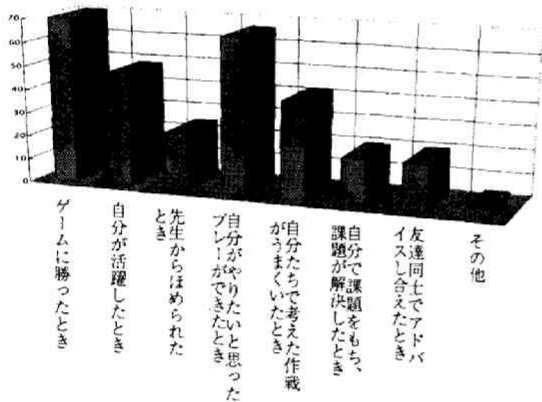
イ. 対象 研究員所属校 第2学年男女 263名 研究員所属地区教員 87名

#### ② 意識調査の結果（生徒）

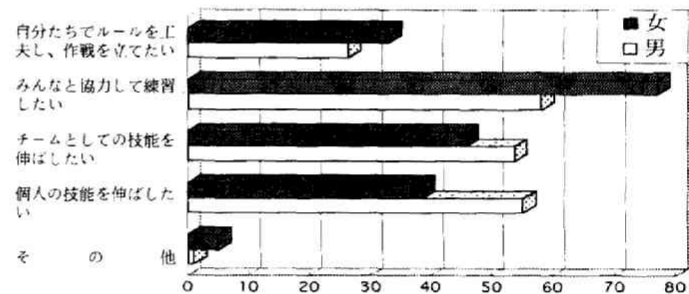
問1 球技の授業で、男女一緒にやってみたいと思う種目はどれか（複数回答）〈表示は%〉



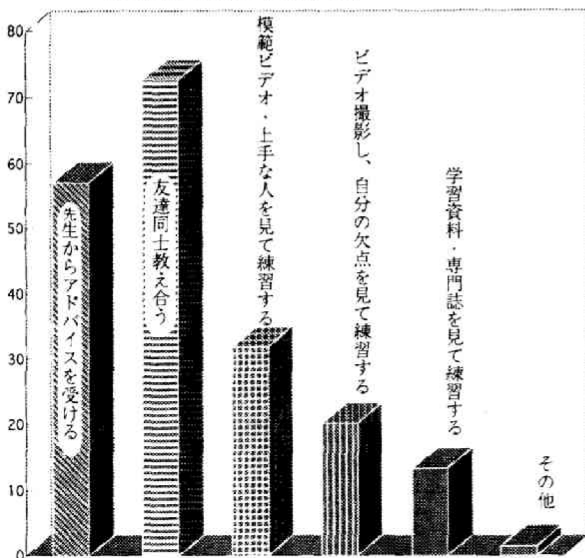
問2 球技の授業中に充実感や楽しいと感じるときはどんなときか



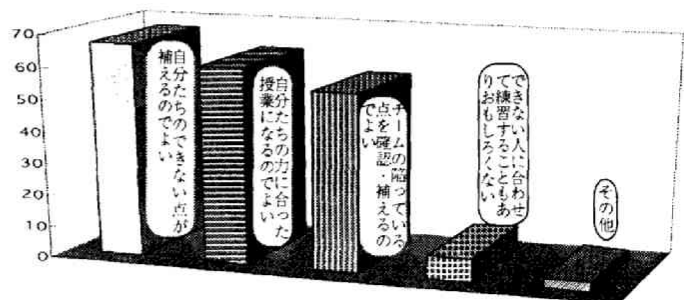
問3 球技の授業で学習したいことは何か



問4 選んだ種目を上達させるには、どのようにしたらよいと思うか



問5 自分たちで学習内容を考え授業を行うことについて、あなたはどうか



③ 分析（生徒）

ア 男女一緒にやってみたいと思う種目は、バスケットボール・バレーボール・ソフトボールが多い。バドミントンも多いが、男子は男女一緒にやりたいと答えた生徒が少ない。

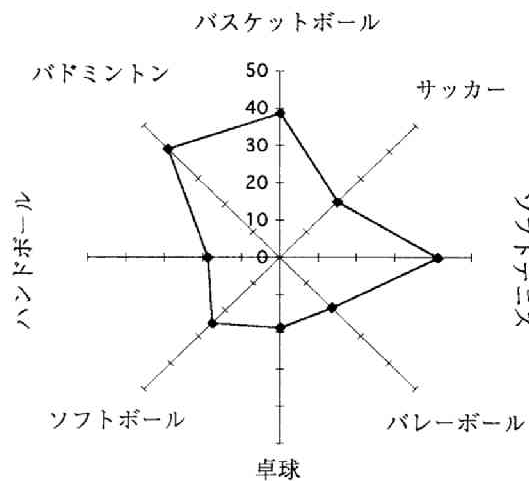
イ 授業中、楽しいと感じるときは「ゲームに勝ったとき」「やりたいと思ったプレーができたとき」であり、楽しくないと感じるときは「ゲームができないとき」である。「うまい人達だけでゲームを進めているとき」「基礎練習ばかりでゲームができないとき」である。また、授業で学習したいことは、みんなと協力して練習することである。

ウ 技の上達のためには「友達同士教え合うこと」「先生からアドバイスを受ける」が多い。

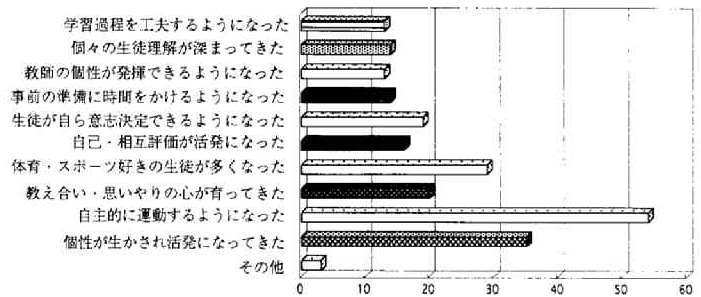
エ 自分たちで学習内容を考え授業を行うことは「自分たちの欠点を補えるのでよい」が多い。

④ 意識調査の結果（教師）

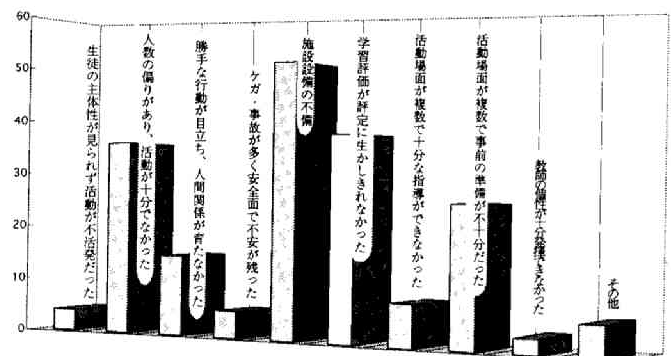
問1 球技の学習で「選択制授業」を実施している、または実施したい種目は何か。（複数回答）〈表示は%〉



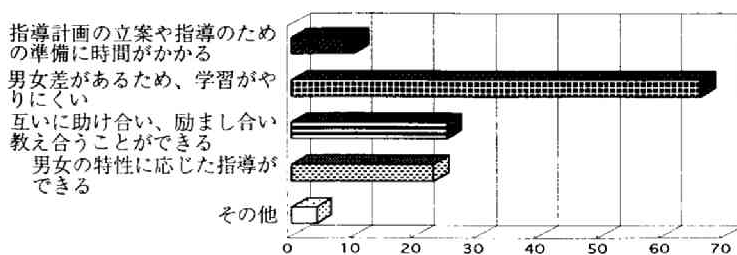
問2 「選択制授業」を実施したことによる成果、あるいは予想されることは何か（複数回答）〈表示は%〉



問3 「選択制授業」を実施した（実施できない）問題点はどんなことか（複数回答）〈表示は%〉



問4 男女共習授業についてどう思うか（複数回答）〈表示は%〉



## ⑤ 分析（教師）

- ア 球技の授業で「選択制授業」を実施、または、実施したいと思う種目は、ソフトテニス・バスケットボール・バドミントンが多い。
- イ 選択制授業の課題については、施設・設備がなく、人数の偏りがあり、十分な活動ができず、また、評価も難しいとの考えが多い。
- ウ 男女共習をやりにくいと考えている教師は70%近くである。また、実施していない教師が50%以上である。実施している場合は、個人的スポーツの水泳・陸上競技が多い。

## ⑥ 考 察

- ア 生徒は、ゲーム中に充実感や楽しさを感じる事が多く、ゲームに自分が何らかの形で参加できないときは、楽しくないと感じる傾向にある。
- イ 生徒は、技の上達のためには、視聴覚や学習資料よりも人との関係を重視している。
- ウ 生徒は、自分たちで学習内容を考え授業を行うことは、技能やチーム力の向上に効果があると考えている。
- エ 男女共習を実施している領域は、個人的スポーツの割合が高く、球技などの集団的スポーツでの実施は、教師は指導しづらいととらえている傾向がある。
- オ 教師は、選択制授業を実施したことにより「主体的に運動するようになった」「体育・スポーツ好きの生徒が多くなってきた」と考え、選択制授業の成果に対しての期待感をもっている。

## (2) 特 性

### ① 一般的特性

ボールを媒介として、個人対個人、あるいは集団対集団の攻防から得点を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、チーム（個人）の特徴に応じた作戦を立てて勝敗を競う運動であり、生徒一人一人の個性を生かし、互いに教え合って主体的に学習を進める協力的な態度が重視される。

#### ア バスケットボール

パスやドリブルを使ってボールを進め、相手の防御をかわしてシュートするなどで攻防を展開し、集団対集団で勝敗を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

#### イ バレーボール

ネットを境に相對した2つのチームが、サービス、パス、トス、スパイク、ブロック、レシーブなどで攻防を展開し、集団対集団で勝敗を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

#### ウ ソフトボール

投手の投げたボールを打者がバットで打って、走者を進塁させるなどで攻防を展開し、集団対集団で勝敗を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

### ② 生徒から見た特性

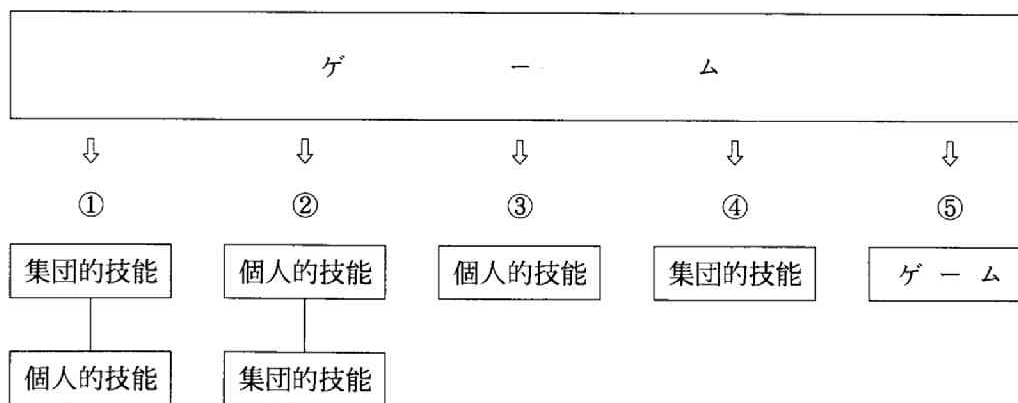
個人的技能、集団的技能の両面が必要であり、チームワークを大切に、人数やコー

トの大きさ、ルール等を工夫したゲームを行うことにより、誰でも楽しさや喜びを味わえる領域である。

(3) 学習過程の工夫

- ① 毎時間はじめにゲームを行うことにより楽しさを味わうとともに個人及び集団の課題を設定できるよう工夫した。
- ② 「学習の進め方のパターン」の5つの中から、個人的技能と集団的技能を選択し練習できるよう工夫した。

学習の進め方のパターン	パターンの特色	キャッチフレーズ
① パターン	よりチーム力を高めるために、個人的技能を追求するタイプ	『スーパーレベルアップ型』
② パターン	個人の欠点を補強し、チームのレベルアップを追求するタイプ	『ホップ・ステップ・ジャンプ型』
③ パターン	個人的技能を伸ばすことを追求するタイプ	『スーパースター型』
④ パターン	チームプレーを中心に練習し、チームのレベルアップを追求するタイプ	『チーム力・アップ型』
⑤ パターン	ゲームの流れを組み立てることを追求するタイプ	『ゲーム×3型』



(4) 課題のもち方と解決の仕方の工夫

- ① 毎時間はじめに行うゲームや学習ノートにより、個人やチームの課題を確認することができるようにする。
- ② 学習ノートや学習資料をもとにして、個人やチームの課題を解決するため、「学習の進め方のパターン」を選択し、そこに学習内容をあてはめ、生徒自らが解決できる工夫をする。
- ③ 個人やチームのレベルに合わせてルールや学習方法を工夫し、課題を解決していく。
- ④ 各課題に対して適切な教師の支援（指導・助言等）ができるようティームティーチングを導入する。

(5) 第2学年「球技」単元計画（18時間扱い）

① 学習のねらい

- ・今できる技能を使ってゲームを楽しみ、個人・集団の課題に応じた練習を工夫する能力を身に付ける。
- ・学習資料を活用し課題解決の方法を見付け、ゲームや練習の中で確かめる能力を高める。
- ・個人的技能を高め、集団的技能の練習をし、チームで作戦を工夫してゲームを楽しむ。
- ・習得した技能を生かしながら、高まった力で各球技の対抗戦を行い、ゲームの楽しさを味わう。

② 学習方法（男女共習、生徒による種目選択）

球技の中から生徒アンケートにより、バスケットボール・バレーボール・ソフトボールの3種目を開設し、その中から1種目を選択して学習する。

段階	学習Ⅰ		学習Ⅱ															
			ねらい1				ねらい2				ねらい3							
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
項目	種目選択のためのゲーム				課題を明確にするゲーム				新たな課題を解決するためのゲーム				対抗戦					
目	オリエンテーション グループの決定				今もっている力で課題を見付け練習する。				高まった力で課題を見付け練習する。				相手に応じて作戦を工夫してゲームを楽しむ。					

段階	時間	学習内容・学習活動	教師の働きかけ
学	1	オリエンテーション 種目選択のためのゲーム	T L - T 1 - T 2型
習	5	・種目決定 ・グループ決定 ・役割分担 ・資料の使い方	・T Lが生徒全体を掌握し指導にあたる。
1	4	・学習の見通し	・学習形態・方法について理解できているか。（評価）
学	5	ねらい① 今できる技能を使ってゲームを楽しみ、個人・集団の課題に応じた練習を工夫する。	T 1 - T 2 - T 3型
		・ゲーム（ルールの工夫） ・個人、集団の課題把握 ・課題を解決するための練習	T 1：バスケットボール
		・自己評価・相互評価 ・ノートの記入	T 2：バレーボール
習	10		T 3：ソフトボール
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・左の①～④の学習の進め方のパターンを選ぶ</li> <li>・学習資料により、学習の進め方のパターンに学習内容をあてはめ練習する。</li> </ul>	を担当し指導にあたる。
学	11	ねらい② 技能の向上に応じて対戦チーム（相手）を選び、相手に応じた作戦や練習を工夫してゲームを楽しむ。	・各チームの能力に応じたゲーム・ルールの工夫がなされているか指導する。
		・ゲーム（ルールの工夫） ・個人、集団の課題把握 ・課題を解決するための練習	・今までの学習経験を生かし、のびのびと楽しく主体的な学習を行っているか。（評価）
習	14		・自主的に安全点検を行わせ、安全についての意識を高めさせる。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・左の①～⑤の学習の進め方のパターンを選び練習する。</li> </ul>	・個人・チームの課題を達成するために、学習計画を工夫しているか。
ま	15	ねらい③ 相手の戦力に応じた作戦を工夫してゲームを楽しむ。	・チームごとに協力、助言し合って学習しているか。（評価）
と	5	・対抗戦（ルールの工夫）	・チームでまとめ、各自の学習活動を自己評価・相互評価させ学習ノートが利用できているか確認する。
め	18	・自己評価・相互評価	・運動の楽しさや喜びを味わうことができたか。（評価）
単元計画作成上の留意点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共習でグループ編成を行い、個人差を認め合いながら個人・チームの課題解決に向けて学習が進められるようにする。</li> <li>・チームティーチング導入により、主体的な学習を支援する。</li> <li>・学習ノート、学習資料、VTR等を効果的に活用させる。</li> <li>・用具、器具に関する安全点検を行い、場所の割り振り等安全に対する意識を高める。</li> <li>・学習過程を工夫し、主体的な学習が円滑に行われるようにする。</li> </ul>	



(6) 実証授業指導案 2 学年『球技』（18時間扱いの 7 時間）

① 本時のねらい

- ・今できる技能を使ってゲームを楽しみ、個人・集団の課題に応じた練習を工夫する。
- ・学習の進め方のパターン①～④を選択し、ルールを工夫した楽しいゲームができるようにする。

② 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の働きかけ・ポイント	関心・意欲・態度（関） 技能（技） 思考・判断（思） 知識・理解（知）
<p>は じ め 7 分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用具・器具の準備/安全点検</li> <li>・集合・整列・挨拶・出欠確認</li> <li>①各種目活動場所に集合…グループR先頭。</li> <li>②学習ノート回収…ノート係が回収する。</li> <li>・準備運動…ストレッチ・ランニング・種目の特性を生かした運動を行う。</li> <li>・本時の流れの確認…リーダーを中心に学習ノートを活用し、本時の課題を確認する。</li> </ul>	<p>(T1～T3 各種目グループを分担) T1：バスケットボール（体育館） T2：バレーボール（体育館） T1：ソフトボール（校庭）</p> <p>自主的に用具の準備・点検を行わせる</p> <p>学習ノートを回収させる</p> <p>アップ/ストレッチが十分行われているか巡回する</p> <p>本時の課題について指導する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力し合い準備しているか (関)</li> <li>・自他の健康に関心を持ち、正しく把握しているか。(関)</li> <li>・課題をもち、意欲的に話し合い学習に取り組もうとしているか。(思)</li> </ul>
<p>な か 35 分</p> <p>バスケットボール    バレーボール    ソフトボール</p> <p style="text-align: center;">↓                          ↓                          ↓</p> <p style="text-align: center;">ゲ                          ェ                          ム</p> <p>○今できる技能を使ってゲームを楽しむ。 試合時間：10分 ルール：簡易ゲームによりルールを工夫する</p> <p>○グループでの話し合い：5分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノートを参考にして、よりよいゲームへ展開するための話し合いをする。</li> <li>・個人・集団の課題に応じた練習を工夫する。</li> </ul> <p>○下記の①～④の学習の進め方のパターンを選択して学習計画をチームで作成する。</p> <p><b>学習過程</b>（パターン例）</p> <p>①                          ②                          ③                          ④</p> <p>集团的技能    個人的技能    個人的技能    集团的技能</p> <p style="text-align: center;">↓                          ↓</p> <p>个人的技能    集团的技能</p>	<p>各チームの能力に応じたゲーム・ルールが工夫されているか指導する</p> <p>能力が発揮できないチームに重点的に支援</p> <p>ゲームを止めてアドバイスすることも大切</p> <p>審判法についても適切な指導をする（生徒と一緒に行う）</p> <p>学校施設により、例えばバスケットバレーを校庭で行っててもよい</p> <p>ゲーム中の良いプレーは高く評価し、また他のゲームを見せることも大切</p> <p>ゲーム終了後、チームでの話し合いの場を大切にする（ゲームの分析・次へのステップを促す）巡回しアドバイスする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女仲よく協力してゲームを行っているか。(関)</li> <li>・ルールについて各グループで話し合いがなされているか。(思)</li> <li>・自他共によいプレーについて互いに認め合っているか。(関)</li> <li>・種目別の運動量についても考慮しているか。(思)</li> <li>・学習ノートを参考に各グループに合った練習メニューを選択しているか。(思)</li> </ul>
<p>【予想される活動の例】</p> <p>バスケットボール（A君②パターンを選択） ⇒ 个人的技能                          集团的技能 ランニングシュート・1対1 ⇒ 3対3・ゾーンディフェンス</p> <p>グループビンゴ 僕らのチームは、シュート力に欠ける。もっとシュートを正確に、そしてチームではコンビネーションをもっとふやしていきたい。</p> <p>バレーボール（B君①パターンを選択） ⇒ 集团的技能                          个人的技能 サービスからの三段攻撃 ⇒ サービスレシーブ</p> <p>グループビンゴ 相手のチームのサーブは何とか拾えるようになったが、なかなかセッターにボールが上がらない。もう一度基本からやり直した。</p> <p>ソフトボール（Cさん③パターンを選択） ⇒ 个人的技能 キャッチボール・トスバッティング</p> <p>グループビンゴ 私たちのチームは女子より男子の方が人数が多い。守備でもバッティングでもやはり男子の方が上手。次の試合に備えて、とにかく練習。</p>	<p>【予想される活動留意点】</p> <p>各チームで練習場所が重ならないよううまく調整する（リーダーに指示）</p> <p>ミスした人をけなしたり叱ったりしない</p> <p>ボールにつまづいたりのって転倒したりすることのないようボールの管理をしっかり行う</p> <p>ナイスプレーはみんなで認められるようにする</p> <p>グラウンドはよく整地し、石などの危険物は取り除く</p> <p>練習やゲームでバットを振るときは、回りの人に注意する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共習で協力して話し合っているか。(関)</li> <li>・得点につながるようなプレーができているか。(技)</li> <li>・計画どおりに練習が進んでいるか。(思)</li> <li>・マナー・安全について考えて行動しているか。(関)</li> </ul>
<p>ま と め 8 分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種目グループ全員集合（体育館）整列する。</li> <li>・健康状態の反省 ①種目ごとに本時のゲーム・学習内容を発表する。（よかった点・次時の課題）</li> <li>②各種目チームに別れ、リーダーを中心に学習ノートに記入する。</li> <li>・次時の課題の設定をする。</li> <li>・整列・挨拶・解散（用具係は片付けをする）</li> </ul>	<p>(TL：指示 T1～T3：巡回)</p> <p>健康状態を確認する</p> <p>学習ノートを活用し、本時の反省を発表させノートに記入させる</p> <p>各チームで本時頑張った人を発表させる等励みをもたせる</p> <p>記入状態を巡回し、助言する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他共に健康状態を把握しているか。(関)</li> <li>・本時の自己・チームの課題が達成されたか。(関・技)</li> <li>・次時への課題選択がなされているか。(思)</li> </ul>

(7) 資 料

① 学習カード

ア 学習ノート バレーボール の例

●学習計画と記録

\_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 組 氏名 \_\_\_\_\_

▼ ゲ ー ム の 記 録	◆対 ( ) グループ戦 ( ) 対 ( ) で 勝 ち ・ 負 け ・ 引 き 分 け	◆対 ( ) グループ戦 ( ) 対 ( ) で 勝 ち ・ 負 け ・ 引 き 分 け			
《チームの課題》		《個人の課題》			
☆本時の学習の進め方 ( ) パターン					
△個人的技能の学習内容			▲集団的技能の学習内容		
・ ・			・ ・		
観点	項 目	自表	観点	項 目	自表
関心 意欲 態度	グループ全員と楽しく協力して練習やゲームができた		技   能	オーバーハンドパスやアンダーハンドパスが正確にできた	
	ルールを守り、勝敗に対して公正な態度がとれた			サービスを正確に相手コートに入れることができた	
思考 判断	課題に対して練習を工夫してできた			サービスレシーブをセッターに返すことができた	
	ゲームや練習で自分やチームの考えを工夫してできた			味方の打ちやすいトスを上げたり、スパイクを打つことができた	
知識 理解	動きのポイントが理解できた		チームとしての状況に応じた攻防ができた		
	ルールや審判法が理解できた		☆チームの友達の中で、一番光っていた人を書こう！ ( )		
A：よくできた		B：まあできた		Cもう少し	



イ グループの記録カード (バレーボール)

イ バレーボール		35E	リーダー名
個人	ホールのディグパス		
個人	肩上げ		
個人	ファンクションパス		
個人	裏パス		
個人	羽人パス		
個人	ネットをはさんで羽人パス		
集団	円陣パス		
個人	扇形パス		
個人	円陣移動パス		
サービ	ス		
個人	アンダーハンドサーブ		
個人	オーバーハンドサーブ		
個人	フロッターサーブ		
個人	ジャンプサーブ		
スマイ	ク		
個人	スイング		
個人	ステップ		
個人	ネットを跨って		
個人	フロンク線置		
集団	オープントスアタック		
個人	バックトスアタック		
個人	2段トスアタック		
個人	3段トスアタック		
レシー	ブ		
個人	サービレシーブ		
個人	スパイクレシーブ		
集団	シートレシーブ		
個人	サービレシーブ		
個人	スパイクレシーブ		
個人	ブロック付スパイクレシーブ		
個人	チャンスボール攻撃		
個人	サービレシーブ攻撃		
個人	スパイクレシーブ攻撃		
ゲーム			
個人	パスラリーによるゲーム		
個人	ローテーションによるゲーム		
個人	二段攻撃によるゲーム		
個人	ブロックを使ったゲーム		
個人	二段攻撃によるゲーム		
個人	チームで止めたゲーム①		
個人	ゲーム		

ウ 今日のMVP (名前・理由)

5		
6		
7		
14		
15		
16		

エ 学習のまとめ

(バスケットボール・バレーボール・ソフトボール共通)

(1)	毎時間、自主的に取り組めた。	A・B・C
(2)	グループで協力できた。	A・B・C
(3)	楽しく活動できた。	A・B・C
(4)	練習の計画を考え、それに基づき計画的にできた。	A・B・C
(5)	けがや事故に気をつけて、安全に活動できた。	A・B・C
(6)	技能が向上した。	A・B・C

(8) 本時の結果と考察

① 結 果

ア 「学習 I」におけるゲームで、自分に合った種目を選択できるようにしたことにより生徒が一層学習に意欲的に取り組むようになった。

イ 毎時間の活動においてゲームをはじめに取り入れ、学習の進め方のパターンを選択できるようにしたため、課題解決の方法・内容が明確になった。

ウ 学習資料や学習カードの内容を工夫し、自己評価・相互評価を取り入れたことにより、個人・集団(チーム)の課題が明確になり、課題解決への意欲が高まった。

エ ゲームを多く取り入れることによりルールの工夫がなされ、一人一人の活動が活発になった。また、種目による男女の違いや個人の技能の習得状況の差がかなり解消できるようになった。

オ ティームティーチングを導入したことにより、複数の教師の目で生徒一人一人に助言・補助等が行え適切な支援ができた。

② 考 察

ア 選択制授業では、生徒や学校の実態に即した種目の設定が重要である。

イ 施設・設備面での不十分な点は、事前の打ち合わせで、場所の工夫や合同練習等を取り入れた学習計画を立てて解消する必要がある。

ウ 教師相互の連絡や情報交換を密にすることにより、安全に留意しながら生徒一人一人に合った支援の仕方などの一層の工夫が重要である。

エ 学習資料や学習カードは、適時生徒が活用できるように分かりやすく、記入しやすい、幅広い内容のものを工夫する必要がある。

オ 学習過程の中で自己評価・相互評価を的確に行い、その評価を生かした学習活動が展開できるよう配慮することが必要である。

## VI 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

生涯体育・スポーツの基礎づくりとなる中学校保健体育の学習において、「学習の主体は生徒である」という考え方を重視し、生徒が主体的に学習を展開できるようにすることが重要である。

そのために、生徒一人一人の興味・関心、能力・適性等を大切にし、生徒が運動種目や学習内容を選択し、自己の課題を明確にし、自ら課題を解決する工夫を研究のねらいとし、今年度の研究では、『学習過程の工夫』『課題のもち方と解決の仕方の工夫』の2点をの主な研究内容について、研究を進めてきた。「器械運動」「球技」領域のそれぞれの分科会で男女共習により、『学習の進め方のパターン』を生徒が選択し、そこに、自己の課題に応じた学習内容をあてはめ、学習資料を活用しながら課題解決を図る授業を通して、生徒一人一人が主体的に学習できるような授業を考案した。その実証授業の結果、次のような研究の成果が得られた。

- (1) 生徒一人一人が自己に合った課題を設定し、学習することで、学習意欲が高まった。
- (2) 学習過程において、『学習の進め方のパターン』を例示し、生徒がそれを選択して自ら学習計画を立てることにより、課題解決に向けて見通しをもった学習活動が展開できた。
- (3) 男女共習によるグループ学習を通して、仲間とともに協力し合い、教え合いや、認め合いなどの態度が育成された。
- (4) ティームティーチングにより、生徒一人一人の課題解決に向けて、援助・助言などの支援の仕方を工夫することで、生徒が立てた学習計画を円滑に実施することができた。
- (5) オリエンテーションを綿密に行うことは、その後の学習活動に生徒が意欲的に見通しをもって参加していくために極めて有効であった。
- (6) VTRの活用は、日頃、自己のフォームやプレーを見る機会の少ない生徒にとっては、課題の発見と課題解決のために有効であった。
- (7) 学習資料や学習カードを効果的に活用することで、主体的な学習活動を促すことができた。

### 2 今後の課題

- (1) 学習の進め方や学習内容など、課題を解決するための学習情報を豊富に準備し、学習資料・学習カードを使用しやすいように工夫改善する必要がある。
- (2) それぞれのグループのリーダーの役割が、課題の設定、学習計画の立案等の学習活動と深いかわりがあり、リーダーの育成を工夫する必要がある。
- (3) 「器械運動」においては、技の『できばえ』を的確に把握すること、「球技」においては、ゲームの分析がしっかりできることなど、今後、支援する方法を検討する必要がある。
- (4) 各運動の特性に触れる楽しさを味わい、生徒が自発的・自主的に学習活動を行うために、様々な観点からの評価について明らかにする必要がある。
- (5) ティームティーチングの導入においては、教師の役割分担や生徒への支援等について、具体的な指導の在り方を明らかにする必要がある。